



2023年10月23日
コスモエネルギーホールディングス株式会社
東洋エンジニアリング株式会社

製油所等で発生するCO₂をメタノールに直接合成する共同検討を開始

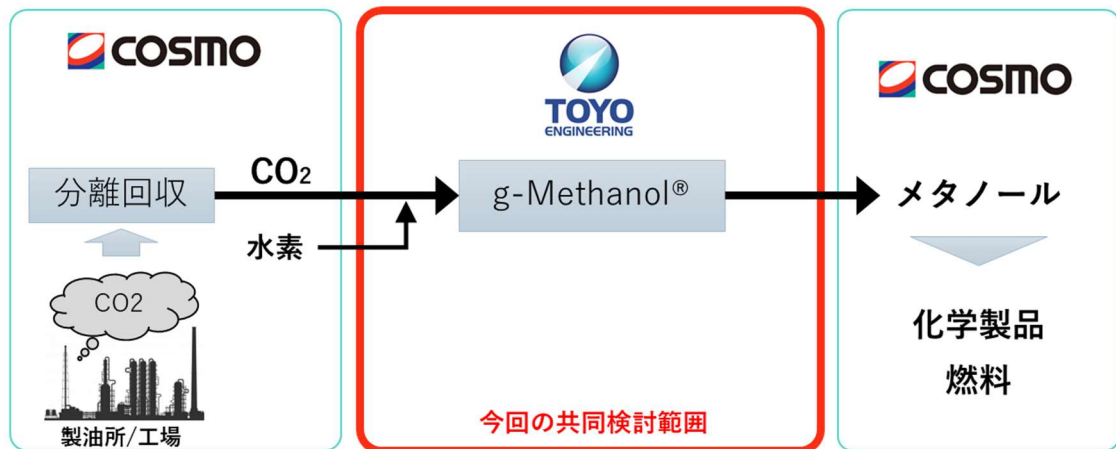
コスモエネルギーホールディングス株式会社（代表取締役社長：山田 茂）と東洋エンジニアリング株式会社（代表取締役社長：細井 栄治、以下「TOYO」）は、触媒を利用したCO₂からのメタノール直接合成に向けた共同検討について基本合意書を10月23日に締結したことをお知らせいたします。

TOYOは水素と製油所や工場から分離・回収したCO₂からメタノールを直接合成できる（g-Methanol[®]）ライセンス技術を保有しています。CO₂を直接原料として使用できることから、複数のプロセスを経由することなく、効率的にメタノールを製造することが期待されます。

CO₂から変換されたメタノールは、重要な基礎化学原料として化学製品や燃料（船舶用燃料、e-fuel）などに展開可能なため、脱炭素に向けたCCU（Carbon dioxide Capture and Utilization）として注目されています。

両社は今回の共同検討を通じて、コスモエネルギーグループの製油所等から発生するCO₂由来のサステナブル製品の生産を目指し、CO₂削減効果や投資採算性等を双方にて検討してまいります。

共同検討のイメージ



コスモエネルギーグループは、「2050年カーボンネットゼロ」を宣言し、Vision2030および第7次連携中期経営計画 Oil&New ~Next Stage~ にて脱炭素に関する取り組みを加速させています。本件は、Vision2030に掲げる「石油事業の競争力強化 低炭素化」に資する具体的施策の一つです。グループ理念である「地球と人間と社会の調和と共生」の実現に向け、社会的課題の解決と企業の持続的発展を目指してまいります。

東洋エンジニアリングは、2021～2025年の中期経営計画に基づき既存事業の強靱化とカーボンニュートラル分野を中心とする新規事業領域の開拓による事業ポートフォリオの変革と収益構造の転換を進めています。また、2050年にGHG排出量ネットゼロの達成を目標に掲げています。自社技術であるg-Methanol®の社会実装を推進することで、ミッションである「エンジニアリングで地球と社会のサステナビリティに貢献する」を実現してまいります。

以上